

東日本ユニオンにいがた

http://www.geocities.jp/higashinihonunion_niigata/

JR東日本労働組合新潟地方本部

2018年2月15日発行

第16号 (通巻第80号)

発行者: 星山 圭 編集者: 教育・広報部

新潟駅検査派出席の提案を受ける

「検修作業体制の見直し」

新潟地本は1月30日に団体交渉を行い、支社側より2017年度「システムチェンジ・コストダウン計画」の実施についてとして、検修作業体制の見直しの提案を受けました。

地本交渉団は支社側より提案があったため残して「新潟駅における115系の分割・併合作業の解消等及び新潟駅付近連続立体交差事業高架第一期開業に伴い、新潟駅検査派出席を廃止する」として、新潟車両センター△3の提案を受けました。

実施の理由として挙げられた新潟駅での115系の分割併合作業解消は、今ダイヤ改正での実施ではないため、なぜこのタイミングでの提案であるのかを質しました。

支社側は、当該の作業は平成28年ダイヤ改正で解消され現在は既に無いとしました。その上で、臨修

今までは、検修が行っていたことを乗務員が依頼されるようになるのかを交

渉団が問うと支社側は、他の駅と同様の取扱いとなる」と答えました。

また、比較的多い作業として球切れや蛍光灯の交換を挙げ、滞留対応と同じように、安全やサービスに著しく影響があれば派遣修繕で対応し、球切れ等は乗務員に対応してもら

交渉団が足ロスによる列車遅延は仕方がないという考えであるのか質すと支社側は、派出の廃止により遅れるとは考えていないと回答し、乗務員からの情報や「Jointab」で判断し、比較的軽微な対応は乗務員対応なりで行うとしました。

交渉団は、より良い車両の提供が検修の使命であり、折り返しの短い時間でも対応することで支障を最小限にしていると主張し、機動班、駅検があることで対応できている現実を訴えました。

新潟支部 春闘 総決起集会

要求満額勝ち取るぞ!



新潟支部は2月10日、新潟駅会議室において80名を超える組合員の参加のもと春闘総決起集会を開催しました。

参加した組合員から賃上げを勝ち取るための熱い思いを語ってもらい、「労働者の団結で賃上げを勝ち取るんだ」と参加者全員で確認した熱い集会になりました。

その後、懇親会にて日頃の苦労や努力を語り合い団結を深めました。

(新潟支部投稿)



ばならないとして、きめ細やかな対応は出来なくなっても、今後は乗務員からの情報なりで対応していくとの考えを繰り返しました。

交渉団は、駅検がいなくなるデメリットは必ずあると主張、新潟駅は越後線、信越本線、白新・羽越本線が交わる重要駅であり、1つの列車の故障が大きく影響するとして、駅検査の重要性を訴えました。

検修職場のみならず、運輸、営業、指令などにも影響が及ぶ施策であることから、各系統の職場からの議論を通じて、取り組みを創り出していきます。

単体・連結とも増収増益 過去最高の決算を実現

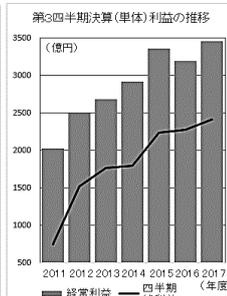
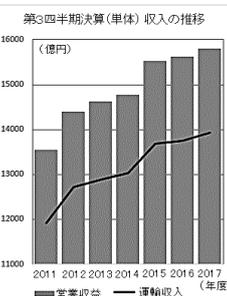
JR東日本 第3四半期決算を発表

JR東日本は1月30日に2017年度第3四半期決算を発表しました。

インバウンドやゴールドエンウィークのご利用が増加したことなどにより、連結・単体ともに増収増益となりました。

単体では、営業収益が前年比18.9億円増の1兆5806億円、運輸収入が同1.69億円増の1兆392.6億円と6期連続の増収となり、第3四半期としては過去最高です。

経常利益も前年比26.1億円増の345.9億円、四半期純利益が同13.9億円増の241.8億円



命にかかわる事故を二度と起こさない

飯山線大根原踏切事故 献花・慰霊

地本執行部は1月29日、事故を風化させることなく飯山線の大根原踏切事故故、労働組合として二度と命にかかわる同種事故を起こさないという決意を新たにしました。

往復の車中では、大根原踏切事故や雪害、労働組合が慰霊を行うことの意味などを考え、語り合いながらの移動となりました。

今後も安全を最重要課題と位置づけ、職場から労働組合の枠にとどまらず安全議論や安全風土づくりに向け、全組合員で取り組んでいきます。

